

令和6年度 文京区障害者地域自立支援協議会

第1回就労支援専門部会

令和6年7月26日(金)

14時00分から16時00分

文京シビックセンター 障害者会館A・B会議室

会 議 次 第

1 開 会

2 議 事

- (1) 令和6年度障害者地域自立支援協議会 就労支援専門部会について
【資料第1-1号～1-4号】
- (2) 令和3年度～令和5年度障害者・児計画事業実績【資料第2号】
- (3) 令和5年度第2回障害者地域自立支援協議会全体会 報告【資料第3-1号～3-2号】
- (4) 第20回共生のための文京地域支援フォーラムについて【資料第4号】

【資料】

- ・文京区障害者地域自立支援協議会について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料第1-1号】
- ・令和6年度文京区障害者地域自立支援協議会 組織図・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料第1-2号】
- ・令和6年度障害者地域自立支援協議会スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料第1-3号】
- ・文京区障害者地域自立支援協議会の検討状況等・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料第1-4号】
- ・令和3年度～令和5年度障害者・児計画事業実績(就労)・・・・・・・・・・・・ 【資料第2号】
- ・令和5年度第2回障害者地域自立支援協議会全体会 報告・・・・・・・・・・・・ 【資料第3-1号】
- ・令和5年度第2回全体会 アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料第3-2号】
- ・第20回共生のための文京地域支援フォーラムについて・・・・・・・・・・・・ 【資料4号】

参考資料

- ・共生のための文京地域支援フォーラム チラシ(案)

文京区障害者地域自立支援協議会について

1 設置目的

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成 17 年法律第 123 号）第 89 条の 3 第 1 項の規定に基づき、障害者等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように、関係機関等と連絡を図ることにより障害福祉に関する課題について協議を行い、地域の障害者等を支援する方策を総合的に推進していくことを目的として設置する。

2 設置時期

平成 20 年 3 月

3 協議会検討事項

- (1) 障害者相談支援事業等に関すること。
- (2) 地域の関係機関によるネットワーク構築等に関すること。
- (3) 障害者相談支援事業等に携わる者の能力開発に関すること。
- (4) 権利擁護の取組に関すること。
- (5) 就労等社会生活の支援に関すること。
- (6) その他地域の障害福祉の増進に関すること。

4 会議運用

(1) 会議の公開

文京区障害者地域自立支援協議会は、原則、公開の会議とする。

(2) 傍聴者の定員及び受付方法

傍聴者の定員は、会場の規模に応じて決定する。傍聴者の受付は、会議開催の当日に会場において先着順に行う。

(3) 会議記録の取扱い

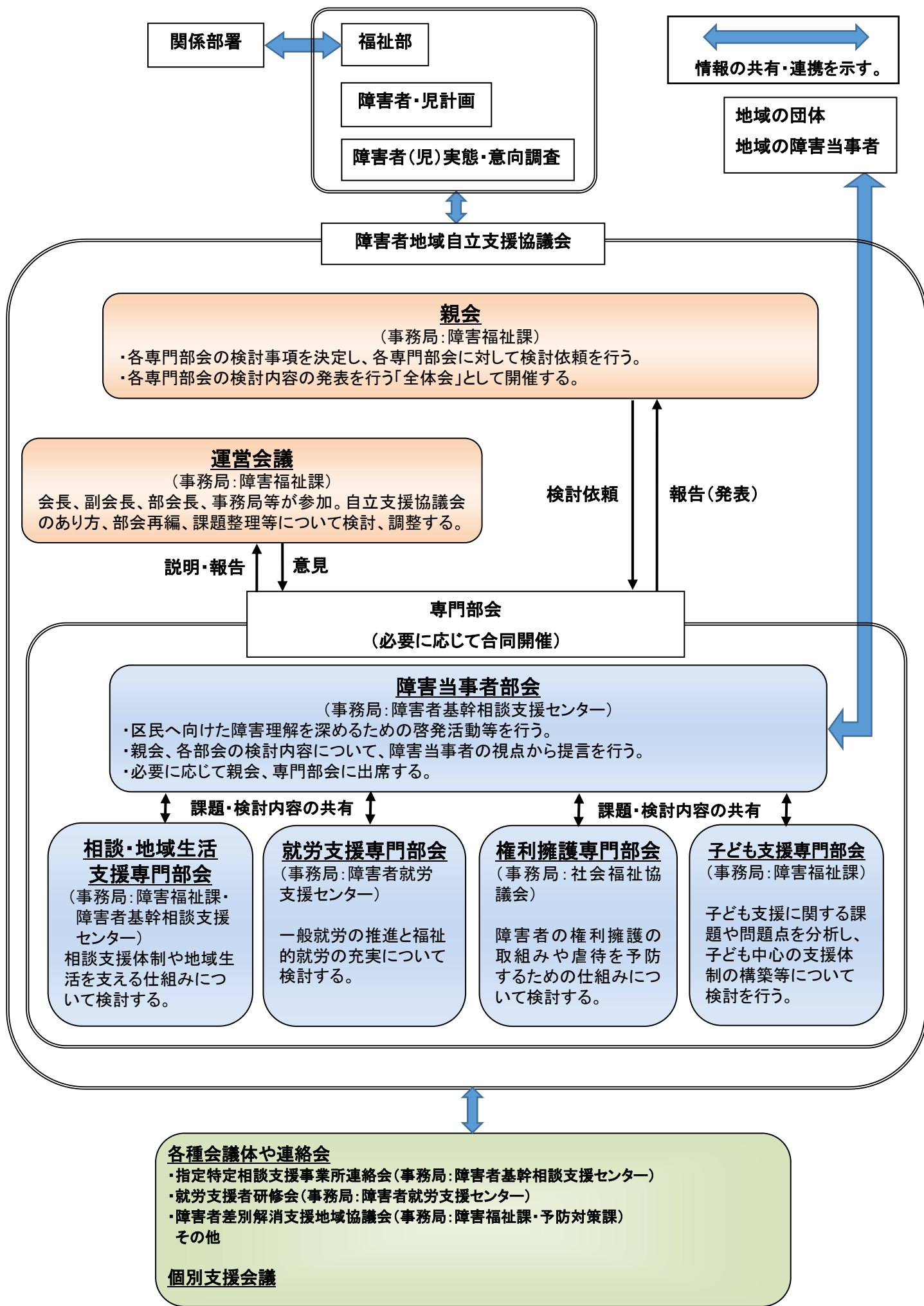
- ・ 障害者地域自立支援協議会（親会）においては、会議録を作成し、会議名、開催日時、開催場所、出席委員氏名、発言内容、その他必要と認めた事項を記載する。
- ・ 各専門部会においては、要点記録方式とする。
- ・ 会議記録及び要点記録の作成に当たっては、その内容の正確を期すため、出席した委員全員の確認を得るものとする。

なお、確認手続を経た会議記録及び要点記録は、行政資料として、資料と併せて行政情報センターに配架するとともに、区ホームページに掲載し、公開する。

(4) 委員の代理出席

委員の代理出席は、認めない。

令和 6 年度 文京区障害者地域自立支援協議会 組織図



令和6年度 障害者地域自立支援協議会スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自立支援協議会 (親会)			第1回									第2回 (発表会)
運営会議					第1回			第2回				
障害当事者部会			検討依頼	第1回		第2回				第3回		発表
専門部会												
相談・地域生活支援専門部会				第1回			第2回			第3回		
就労支援専門部会				第1回			第2回			第3回		
権利擁護専門部会				第1回			第2回			第3回		
子ども支援専門部会			第1回		第2回			第3回		第4回		

令和 6 年度文京区障害者地域自立支援協議会

各専門部会の検討事項について

令和 6 年度の各専門部会の検討事項は、下記の事項とし、検討事項については、文京区障害者地域自立支援協議会運営会議へ検討の進捗状況等を報告する。

また、年度末には、文京区障害者地域自立支援協議会（全体会）において各専門部会の検討内容の発表を行う。

各専門部会は、検討事項に属さない事項についても、必要に応じて検討するものとする。

記

1 相談・地域生活支援専門部会

相談支援に関する課題や問題点を分析し、相談支援体制のシステムや障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制の構築等について調査・研究・検討を行う。

支援を円滑に引き継いでいく方法及び暮らしをサポートする仕組みについて検討する。

2 就労支援専門部会

就労に関する支援内容等についての調査・研究・検討を行う。

共生のための文京地域支援フォーラム実行委員会など関係機関と連携を図り、障害のある方の就労について周知啓発の検討を行う。

3 権利擁護専門部会

権利擁護に関する課題や支援のあり方についての調査・研究・検討を行う。

権利擁護制度の利用促進についての検討及び関係機関との連携について検討する。

4 障害当事者部会

障害理解を深めるための啓発活動等についての検討を行う。

他専門部会や関係団体等と協同して開催し、障害当事者の視点から障害福祉に係る諸課題について検討する。

5 子ども支援専門部会

子ども支援に関する課題や問題点を分析し、「ライフステージに応じた切れ目」のない「子ども中心の支援体制」の構築等について検討を行う。

子ども支援に関する福祉、教育、保健及び家庭支援等の関係機関による相互理解・連携の促進を図り、子どもの特性理解に基づいた切れ目ない支援の課題について検討を行う。

様式3【数値目標あり（毎年度）】

事業名	障害者就労支援の充実					事業番号	3-1-1				
事業内容(P)	障害者の社会参加と自立を促進するため、就労に関する相談・支援等について、障害者就労支援センターを中心に実施する。多様化している障害特性や働き方へのニーズに応じた専門性の高い支援やコーディネート力の強化、増加する新規登録者・就労者に対する定着支援、生活支援等、地域の拠点としての機能の充実を図る。										
数値目標名(P)(D)	単位	令和2年度実績	令和3年度			令和4年度			令和5年度		
			目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率
就労継続者数	人	277	262	303	116%	275	305	111%	288	334	116%
	成果・評価(D)(C)					次年度における取組等(A)					
令和3年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、公共職業安定所主催の合同面接会の機会は減少傾向にあったが、51人が新規就労に結びついた。また、人間関係や体調面の相談など、仕事終わりに面談を行い相談支援中心の定着支援を行った。					新型コロナウイルス感染症の感染予防と支援の両立に継続して取り組み、職業準備期及び定着支援期における支援ニーズに、より一層対応できるように取り組む。 また、就労継続者の増加に伴う定着支援件数の増加へ対応するため、支援方法の見直しを図っていく。					
令和4年度	新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に緩和され、企業実習の実施や面接会の開催が再開し始め、44人が新規就労に結びついた。また、人間関係や体調面の相談など、仕事終わりに面談を行い相談支援中心の定着支援を行った。文京区障害者就労支援センターの新規登録者は64名で令和4年度末時点の登録者は733名となる。高齢化、週20時間未満の就労や親の高齢化、子育てなど家族問題、生活問題の相談も多かった。					就労希望者と企業のマッチングの向上を図るため、職場における必要な配慮や工夫などを、相談場面や実習場面を活用しながら引き続き取り組む。就労に伴う生活支援を引き続き実施しながら、地域生活を送るために必要な生活、医療面の支援について関係機関と連携し取り組む。					
令和5年度	法定雇用率の引き上げや新型コロナウイルス感染症後の事業拡大に伴い採用活動は活発化、79名が新規就労に結びついた。令和5年度末時点での実就労者数は394名となった。一方で採用活動が活発化したことにより、企業と求職者のマッチングが十分なされないままの就職となるケースもあり、早期離職につながる場合もあった。転職の相談も増えており、よりご本人らしい職業人生を進んでいけるようキャリア支援に取り組んだ。					就労希望者と企業のマッチングの向上をより図るため、職場における必要な配慮や工夫などを、相談場面や実習場所を活用しながら検討できるよう引き続き取り組むとともに、就労に関するアセスメント体制の充実を図っていく。また、職場環境のアセスメントにも取り組みながら、よりよい就労環境の整備に取り組む。					

様式3【数値目標あり(毎年度)】

事業名	就労促進助成事業						事業番号	3-1-3			
事業内容(P)	一般就労を目指す障害者が企業等での実習を行う際に、実習を行う障害者就労支援センター登録者に訓練手当を支給することで、障害者の就労・雇用の促進していく。 また、区内中小企業に対して職業体験受入れ奨励金を助成し、実習機会の拡大及び障害者への理解を深めるとともに、区内中小企業の障害者雇用促進の取組をサポートする。										
数値目標名(P)(D)	単位	令和2年度実績	令和3年度			令和4年度			令和5年度		
			目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率
企業実習日数(障害者職業体験助成)	日	146	183	190	104%	190	112	59%	200	146	73%
職業体験受入れ日数(中小企業等障害者職業体験受入れ助成)	日	93	101	84	83%	120	40	33%	130	40	31%
	成果・評価(D)(C)						次年度における取組等(A)				
令和3年度	新型コロナウイルス感染症流行下の影響により令和2年度は減少傾向であったが、令和3年度は増加傾向に転じている。 また、令和4年度以降施行に向け要綱改正を行った。 【障害者職業準備訓練助成事業】 企業等実習:35回・190日・延べ35人 庁内実習(区役所内):22回・23日・延べ51人 また、51人の新規就労者のうち、12人が企業実習先に就労することになった。庁内実習の実績については、他にも軽作業委託手段が複数あり固定化傾向にあったため、すみわけの整理及び庁内への業務切り出しを行った。一部、庁内実習を経て優先調達に繋がっている。 【中小企業障害者職業体験受入れ助成事業】 職業体験受入れ奨励金:12回・6社・93日 雇用促進奨励金:0社						登録者が就職活動をしていく中で、実習の活用が有用な場合、引き続き積極的に企業へ情報提供を行っていく。広報紙への掲載による周知に取り組むとともに、障害者就労支援センター講演会やセミナー等において区内企業へ情報提供を行う。 また、庁内インターンシップの周知についても引き続き取り組む。 利用者にとって、より分かりやすいものとするため、事業名をそれぞれ「障害者職業体験助成」、「中小企業等障害者職業体験受入れ助成」と変更し、事業を展開していく。				
令和4年度	新型コロナウイルス感染症流行下の影響が継続しており、拡大防止措置による催事・実習の休止や、企業等の経営状況の悪化等で、令和4年度は企業等での職業体験の実施回数が減少傾向にあった。 要綱・様式の一部改正を行ったことで、訓練手当の支給を円滑に進めることができた。 【障害者職業体験助成事業】 企業等実習:22回・112日・延べ22人 (障害者就労支援センター登録者への直接支援15回、区内施設通所者の職場実習支援に情報提供・助成のみ7回) (障害者就労支援センター登録者の新規就労者44人の内、企業実習先に就職:実習後雇用あり5回うち4人) 庁内実習(区役所内):17回・19日・延べ44人 【中小企業等障害者職業体験受入れ助成事業】 職業体験受入れ奨励金:5件・1社・40日 雇用促進奨励金:0社 ※「障害者職業準備訓練助成」及び「中小企業障害者職業体験受入れ助成」は、令和4年4月よりそれぞれ「障害者職業体験助成」、「中小企業等障害者職業体験受入れ助成」に名称変更						雇用に直結する事例は多くはないが、就労意欲の喚起向上や雇用促進の契機にはなっており、引き続き積極的に活用促進を行っていく。 法定雇用率の引き上げや、新型コロナウイルス感染症流行の影響の減退による企業等の経営状況の復調・各種催事の通常再開等を見据えて、障害者・区内企業等への情報提供を進める。令和5年度は対象者及び関連機関にチラシ等の周知を行うとともに、企業に向けては講演会等に加え、広報紙への掲載等、関連部署と連携しながら事業周知を拡大していく。				
令和5年度	新型コロナウイルス感染症流行下の影響により減少傾向であったが、令和5年5月より5類感染症に移行したことにより、実績の増加がみられる。しかし、目標数には達していない数値となっている。 【障害者職業体験助成事業】 企業等実習:20回・125日・延べ21人 (障害者就労支援センター登録者への直接支援13回、区内施設通所者の職場実習支援に情報提供・助成のみ7回) (障害者就労支援センター登録者の新規就労者52人の内、企業実習先に就職:2人) 庁内実習(区役所内):19回・21日・延べ48人 【中小企業等障害者職業体験受入れ助成事業】 職業体験受入れ奨励金:6件・1社・40日 雇用促進奨励金:0社						特に実績の少ない、中小企業等障害者職業体験受入れ助成事業について、法定雇用率の引き上げ等に伴い、区内企業からの問い合わせが増えており、中でも助成の対象から外れてしまうという内容の相談が多く寄せられることから、助成対象に障害者雇用の実績がない区内事業所を追加し、助成対象を広げる旨の要綱の改正を行っていく予定である。また、引き続き助成対象者や区内事業所等への事業周知を行っていく、活用促進を図っていく。				

様式3【数値目標あり（毎年度）】

事業名	就業先企業への支援						事業番号	3-2-1			
事業内容(P)	法定雇用率の引上げやそれに伴う納付金制度の対象企業の範囲拡大等により障害者雇用に取り組む企業が増えていることを踏まえ、障害者理解のための情報提供や、合理的配慮の提供の下で雇用促進が図られるよう、企業への相談支援を行うとともに、精神障害者の雇用機会の拡大に対応できる相談体制について充実を図る。 また、雇用管理やキャリア支援、人材育成の方法、メンタルヘルスなど企業の相談内容の多様化に対応するため、企業支援体制の充実を図る。										
数値目標名(P)(D)	単位	令和2年度実績	令和3年度			令和4年度			令和5年度		
			目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率
企業への支援	件	1,461	1,750	1,681	96%	1,767	1,353	77%	1,784	1,048	59%
	成果・評価(D)(C)						次年度における取組等(A)				
令和3年度	登録者の就業先を定期的に訪問することや、電話等での相談に対応するとともに、登録者以外の障害者を雇用している区内企業からの相談に応じた。 また、状況に応じて、電話連絡や訪問の頻度を増やすなど柔軟な対応を行い就労先企業への支援を行った。就労する登録者が328人と増えており、定着支援による企業訪問なども増加した。在宅勤務や感染予防により訪問が難しい場合はオンラインによる定着支援の実施を行った。						職場における必要な配慮や工夫など、職業準備期及び就職活動期において丁寧な相談に取り組むとともに、企業に対して雇用管理の視点から配慮事項の説明をするなど定着支援に引き続き取り組む。				
令和4年度	登録者の就業先を定期的に訪問することや、電話等での相談に対応するとともに、登録者以外の障害者を雇用している区内企業からの相談に応じた。在宅勤務や感染予防により訪問が難しい場合はオンラインや電話相談による定着支援の実施を行っていたが、徐々に従来のやり方である会社訪問による定着支援に切り替え、実施を行った。						職業準備性が十分でないまま就労することで、企業訪問する頻度の増加につながるため、職場における必要な配慮や工夫など、職業準備期及び就職活動期において丁寧な相談に取り組むとともに、企業に対して雇用管理の視点から配慮事項の説明をするなど定着支援に引き続き取り組む。また、法定雇用率の上昇に伴う採用ニーズの高まりに対し、求職者のより高いマッチングを目指し取り組む。				
令和5年度	登録者の就業先を定期的に訪問することや、電話等での相談に対応するとともに、障害者雇用を新たに進める区内企業からの相談や登録者以外の障害者を雇用している区内企業からの相談に応じた。新型コロナウイルス感染症により会社訪問による定着支援が難しかった状況から、会社訪問による定着支援に切り替わり対応を行った。						法定雇用率の引き上げに伴い、障害者雇用に取り組む企業の採用ニーズは高まっている一方、採用した人材の担う職務や役割、職場においてどのような合理的配慮が必要かなどの準備が不十分なまま採用を進めてしまうケースも少なくない。企業における雇用管理の視点や人材活用、質の高い雇用につながるよう相談に取り組むとともに、求職者のより高いマッチングを目指し引き続き取り組む。				

様式3【数値目標あり(毎年度)】

事業名	安定した就業継続への支援					事業番号	3-2-2				
事業内容(P)	<p>就労先への定期的な職場訪問の実施や定期的な個別面談を通して、職場の人間関係等の困りごと等の相談に応じ、就業継続に向けた支援を行う。教育機関(特別支援学校等)や職業訓練校、就労系事業所(就労移行支援・就労継続支援等)からの就職者に対しても、各機関との連携を図りながら職場定着支援を実施する。</p> <p>また、生活の中で生じた課題等については地域の関係機関と連携し、安定した職業生活を送ることができるよう支援する。</p>										
数値目標名(P)(D)	単位	令和2年度実績	令和3年度			令和4年度			令和5年度		
			目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率
職場定着支援数	件	3,701	3,464	4,196	121%	3,498	3,782	108%	3,532	3,051	86%
	成果・評価(D)(C)					次年度における取組等(A)					
令和3年度	<p>就業継続意欲の向上を目的とした「就労継続を祝う会」では、対象者の方から「仕事の支えになった一言」を募り、記念カレンダーを作成した。主に知的障害のある方を対象に、金銭管理や生活に関わることを学ぶ「生活講座」は計5回開催した。定着支援の内容は業務内容や職場環境を確認しながら、企業へ伝えている配慮事項の整理、今後の働き方についてキャリア視点も含め相談を重ねた。職場訪問では、職場環境のアセスメントや人事担当、現場担当者へのアドバイスや相談を実施した。</p>					<p>就労をしていく中で生活面・医療面の支援を必要とする方が増えており、安定した職業生活を送る上で、単独機関では十分な支援が提供しきれないケースについては、地域の関係機関と連携し、地域全体で職業生活を支える取り組みを進めていく。職場定着支援件数は年々増加しており、就労支援の充実を図るため、連携をはじめとした支援方法の見直しを図っていく。</p>					
令和4年度	<p>就業継続意欲の向上を目的とした「就労継続を祝う会」では、2年ぶりにスカイホールにて記念行事を実施することができた。主に知的障害のある方を対象に、金銭管理や生活に関わることを学ぶ「生活講座」は計6回開催した。定着支援の内容は業務内容や職場環境を確認しながら、企業へ伝えている配慮事項の整理、今後の働き方についてキャリア視点も含め相談を重ねた。職場訪問では、職場環境のアセスメントや人事担当、現場担当者へのアドバイスや相談を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響から訪問できなかった企業支援も徐々に再開することができた。</p>					<p>就労をしていく中で生活面・医療面の支援を必要とする方が増えており、安定した職業生活を送る上で、単独機関では十分な支援が提供しきれないケースについては、地域の関係機関と連携し、地域全体で職業生活を支える取り組みを進めていく。職場定着支援件数は年々増加しており、就労支援の充実を図るため、連携をはじめとした支援方法の見直しを引き続き図っていく。</p>					
令和5年度	<p>就業継続意欲の向上を目的とした「就労継続を祝う会」では、小ホールにて記念行事を実施した。主に知的障害のある方を対象に、金銭管理や生活に関わることを学ぶ「生活講座」は計6回開催、月1回程度のたまり場事業として、地域のコミュニティスペースである「ワークスペースさきちゃんち」を借りて実施した。定着支援の内容は業務内容や職場環境を確認しながら、企業へ伝えている配慮事項の整理、今後の働き方についてキャリア視点も含め相談を重ねた。職場訪問では、職場環境のアセスメントや人事担当、現場担当者へのアドバイスや相談を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響も少なくなり、企業訪問する定着支援に切り替わり対応を行った。</p>					<p>就労をしていく中で生活面・医療面の支援を必要とする方が増えており、安定した職業生活を送る上で、単独機関では十分な支援が提供しきれないケースについては、地域の関係機関と連携し、地域全体で職業生活を支える取り組みを進めていく。また、育児や介護などライフイベントをきっかけに就業生活に影響出ることもあり、企業とも協同しながら就業継続に取り組めるよう図っていく。</p>					

様式3【数値目標あり（毎年度）】

事業名	福祉施設から一般就労への移行 ☆					事業番号	3-3-1				
事業内容(P)	就労移行支援及び就労継続支援等の福祉施設を利用する障害者が、一般就労へ移行し定着することを推進する。 また、福祉施設との連携を深めるとともに、様々な就労支援に関する情報提供を行うことで、福祉施設利用者が就労支援の利用につながる環境づくりを進める。 本事業は、第6期障害福祉計画において成果目標に定められている事業である。										
数値目標名 (P)(D)	単位	令和2年度実績	令和3年度			令和4年度			令和5年度		
			目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率
移行人数	人	11	16	9	56%	18	6	33%	20	11	55%
	成果・評価(D)(C)					次年度における取組等(A)					
令和3年度	福祉施設から障害者就労支援センターを経由して一般就労に移行した方は9人であり、対前年度比で2人の減となった。企業における障害者雇用意欲は依然として高いものの、就労の準備が完了している方が多くが移行したこと、生活習慣や対人関係習得のスキル等の就労する前の準備に時間がかかる方の数が増えていることから移行人数が横ばいとなっている。 なお、障害者就労支援センターを経由せずに、直接福祉施設から一般就労に移行した方は、前年度と比べて5人増の48人である。					一般就労への移行や就職後の職場定着に向けた支援について、事業所毎に対応の違いがある中、障害者の方が長く働き続けられるよう、福祉施設、障害者就労支援センター等様々な機関の連携を深める取り組みを推進していく。					
令和4年度	福祉施設から障害者就労支援センターを経由して一般就労に移行した方は6人であり、対前年度比で3人の減となった。法定雇用率の上昇に伴い企業における障害者雇用意欲は高まっているものの、生活面・医療面の支援を必要とする方や、生活習慣、対人関係のスキル等、就労する前の準備に時間がかかる方の数が増えていることが移行人数減少の原因と考えられる。 なお、障害者就労支援センターを経由せずに、直接福祉施設から一般就労に移行した方は、前年度と比べて19人増の67人である。					一般就労への移行や就職後の職場定着に向けた支援について、事業所毎に対応の違いがある中、障害者の方が長く働き続けられるよう、福祉施設、障害者就労支援センター等様々な機関の連携を深め、地域全体で職業生活を支える取り組みを進めていく。					
令和5年度	福祉施設から障害者就労支援センターを経由して一般就労に移行した方は11人であり、対前年度比で5人の増となった。実績の増については法定雇用率の上昇に伴い企業における障害者雇用意欲は高まっていることが、大きな要因だと思われる。一般就労への移行人数は増加傾向にはあるが、生活面・医療面への支援、就労に関するスキルの習得などの支援が必要な方は、多くいることが想定されるため、引き続き支援の検討が必要とされる。 なお、障害者就労支援センターを経由せずに、直接福祉施設から一般就労に移行した方は、前年度と比べて21人減の51人である。					一般就労への移行人数は昨年度実績より増加しているが、未だ目標人数には達していない数値であるため、さらなる実績の増加を図るため、福祉施設、障害者就労支援センター等、様々な機関との連携を深め、職業生活への支援を進めていく。					

様式3【数値目標あり（毎年度）】

事業名	就労移行支援 ☆									事業番号	3-3-2	
事業内容(P)	一般企業への就労を希望する障害者に対し、一定期間就労に必要な知識や能力の向上のために訓練等を行い、障害者の一般就労を促進する。											
数値目標名 (P)(D)	単位	令和2年度実績	令和3年度			令和4年度			令和5年度			
			目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	
実利用者数	人	88	105	107	102%	110	106	96%	115	107	93%	
延利用日数	日	10,817	11,286	13,071	116%	11,823	13,638	115%	12,361	11,962	97%	
	成果・評価(D)(C)						次年度における取組等(A)					
令和3年度	令和2年度と比較して実利用者数が増加し、それに伴い延利用日数も増加した。本サービスは原則2年間の有期限であるため、年度により若干の利用者数の増減があるものと考えられるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で令和2年度にサービスを利用できなかった方に対し、継続しての利用の必要を認めたケースが複数あった。						引き続き、事業所と連携を図り、事業所の特徴や訓練内容について把握する。そのうえで、利用希望者に事業所の特徴や訓練内容等の情報提供を行い、適切な訓練を効果的に受けられるよう支援していく。					
令和4年度	令和3年度と比較して実利用者数が微減したが延利用日数は増加した。令和3年にコロナの影響で実習などが出来なかった方が、ウィズ・コロナで社会活動が動き企業実習などが進んだことが要因として考えられる。						障害者就労支援センターや就労系サービス事業所・支援機関と連携し、利用希望者に情報提供を行い、適切な訓練を効果的に受けられるよう支援していく。					
令和5年度	令和4年度と比較して実利用者数は微増し、延利用日数が減少した。新型コロナウイルスの5類移行により、企業実習等が進み、支給決定期間内に就労へつながったことが要因として考えられる。						障害者就労支援センターや就労系サービス事業所・支援機関と連携し、利用希望者に情報提供を行い、適切な訓練を効果的に受けられるよう支援していく。					

様式3【数値目標あり（毎年度）】

事業名	就労継続支援(A型・B型) ☆									事業番号	3-3-3	
事業内容(P)	一般企業での就労が困難な障害者に対して、働く場を継続的に提供するとともに、知識や能力の向上を図るために必要な支援を行う。											
数値目標名 (P)(D)	単位	令和2年度実績	令和3年度			令和4年度			令和5年度			
			目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	
【A型】 実利用者数	人	18	23	16	70%	26	17	65%	30	13	43%	
【A型】 延利用日数	日	3,287	3,550	2,986	84%	4,083	2,318	57%	4,695	1,758	37%	
【B型】 実利用者数	人	285	294	283	96%	302	288	95%	311	306	98%	
【B型】 延利用日数	日	43,680	47,390	43,609	92%	48,810	44,114	90%	50,270	45,972	91%	
	成果・評価(D)(C)						次年度における取組等(A)					
令和3年度	A型事業所の利用者数・利用日数ともに減少であったが、前年度から通所を継続する利用者が多かった。新規での利用希望が繋がらず目標値を下回った。 B型事業所の実利用者数については、ほぼ横ばいではあるが、延利用日数については目標値を下回っている。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により事業所の閉所が相次いだ状況や、感染予防からの通所を控える状況が要因と考えられる。						引き続き、利用希望者への説明を丁寧に行い、利用者のニーズに応えていく。事業所等の情報提供を行うとともに、各利用者の心身の状況に鑑み、適切な支援を受けられるよう、サービス提供事業所等と連携を図っていく。					
令和4年度	A型事業所の利用日数が減少であったが、利用者数についてはほぼ横ばいとなった。 B型事業所の実利用者数及び延利用日数についてはほぼ横ばいとなった。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により事業所の閉所が多少なりともあった状況や、感染予防からの通所を控える状況が要因と考えられる。						引き続き、利用希望者への説明を丁寧に行い、利用者のニーズに応えていく。事業所等の情報提供を行うとともに、各利用者の心身の状況に鑑み、適切な支援を受けられるよう、サービス提供事業所等と連携を図っていく。					
令和5年度	A型事業所の実利用者数及び延利用日数ともに減少した。 B型事業所の実利用者数については18名増加し、延利用日数についても増加した。 令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類移行となったことにより、活動を再開した利用者が増えたこと等が要因と考えられる。						引き続き、利用希望者への説明を丁寧に行い、利用者のニーズに応えていく。事業所等の情報提供を行うとともに、各利用者の心身の状況に鑑み、適切な支援を受けられるよう、サービス提供事業所等と連携を図っていく。					

様式3【数値目標あり（毎年度）】

事業名	就労定着支援 ☆						事業番号	3-3-4			
事業内容(P)	就労移行支援等を利用し一般就労した障害者について、一定の期間にわたり、就労に伴う生活面の課題に対応できるよう、事業所・家族との連絡調整等支援を行う。										
数値目標名 (P)(D)	単位	令和2年度実績	令和3年度			令和4年度			令和5年度		
			目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率
実利用者数	人	45	51	40	78%	55	45	82%	60	51	85%
	成果・評価(D)(C)					次年度における取組等(A)					
令和3年度	事業所による生活面での課題にサポート等を行うことで、利用者が安定して就労を継続できたと考えられる。					適切なサービスの支給ができるよう、事業所と連携する。引き続き周知を行い、利用者の増加を図る。					
令和4年度	就労移行支援等の利用時に把握した障害者一人ひとりの課題について、引き続きサポートを行うことで、安定した就労継続の実績を増やすことができた。					事業所との連携を充実させ、適切な支給ができるよう、連絡調整等の支援を行う。					
令和5年度	一般就労をしている障害のある方が長く職場に定着できるよう、就労に伴う生活面の課題に対して、連絡調整や指導・助言により、安定した就労継続を支援することができた。					事業所との連携を充実させ、適切な支給ができるよう、連絡調整等の支援を行うとともに、周知啓発を行い、利用者の増加を図る。					

令和5年度第2回障害者地域自立支援協議会全体会 報告

1 開催概要

日時：令和6年3月18日（月）14時から16時30分まで

会場：レクリエーションホール（文京シビックセンター地下1階）

2 周知方法

区電子申請フォームまたは電話、メールにて受付

- ・区報掲載（2/25号）
- ・区ホームページ掲載
- ・チラシ配布（専門部会員、区内事業所、話し合い員、相談員、障害者団体、差別解消支援地域協議会）

3 来場者数

親会委員 22名、障害当事者部会員 5名、子ども支援専門部会長、傍聴 41名

<傍聴内訳>

事業所職員 11名

障害当事者・家族 11名

障害者団体 1名

専門部会委員 12名

その他 6名

4 発表内容

- ・自立支援協議会全体会の趣旨説明
⇒高山会長より
- ・区の現状・制度説明
⇒障害福祉課より
- ・障害当事者部会委員より半生を語る
⇒障害当事者部会員 2名より
- ・専門部会より活動発表
⇒各専門部会長より
- ・トークセッション
⇒委員 1名、傍聴 3名より発言、高山会長、志村副会長よりコメント
- ・当事者部会委員より感想
⇒障害当事者部会員 2名より

以上

評価	感想
大変良かった	色々の勉強をしました。ありがとうございました。
大変良かった	サービス提供者（支援員）側の見解として、障害のある方に対する意思決定支援や環境の整備の大切さ、また今行っている支援及び事業所としての方針に自信を持つことが出来る良い機会でした。これからも障害のある方への支援の質向上を目指して行くのですが、その中でご家族による当人に対する理解及び協力も非常に重要ととらえております。距離が近い事や愛ゆえに当人の意思決定の妨げになってしまうケースや環境を乱すことに繋がるケースも散見されます。支援側とご家族が相対することは決して当人の為にならず、ご家族の当人への携わり方や支援の在り方に対する理解・協力を深め方についても議論が深まっていくことを期待いたします。
大変良かった	当事者の方々のお話などを聞く機会がほぼない中で、お2人それぞれのお話が、共感できる部分もあったり、今後の自分の行動等も今まで以上に声かけしたり等していくのが良いんだと思い返したりしました。自分も少なからず障害を持っている身として、自分の持てる「権利」は主張していかなければ、環境は良い方には変わらないと言うことや、障害のある人だけでなく、周りの健常者の方たちも、同じように考えて行く必要があるなど、考え方の幅が広がったように思います。 なかなか、こういった機会はないので、参加出来て本当に良かったです！
良かった	多くの参加者が集まり、また挙手による発言も出ていたことで発表者と傍聴ではない会場の一体感があった。まだ初回なので皆手探りな印象も見られたが、多くの人の関心とやっとな誰かが参画できる協議の場ができた気がする。是非来年もやってほしい。
大変良かった	たくさんの方が関心を寄せてくれており、開けたものにしていった方が良いと感じました。
大変良かった	他部門の取り組み課題、文京区全体の方向性等を知ることができて良かった。また、当事者の方の思いを聞いたことが良かったです（特に意思決定について）
良かった	当事者お二人からの半生をお話していただいたことはとても良かったです。心打たれました。ありがとうございました。とても有意義な時間でした。
大変良かった	勉強をしていきたいと思います
良かった	障害者のことがわかってよかった。
普通	時間の制約がある中で仕方がないと思うのですが、各部会からの報告が少し具体的に欠けたのではないかと思います。資料を詳しくして、後で参照できるようにしてはかがかかと思ひます。

良かった	障害のある人もない人も人として当たり前の生活を送る、遅れること、心のバリアフリー、本人のありのままを池入れて困っている事に対しての支援をして頂けるとありがたいです。又、頼んだ支援がちゃんと共有されているのかどうかダブルチェックがとても大切なのではないかと思いました。本人が置き去りにならないようにまた、障害者の方によりそった「ものさし」で支援をして頂きたいです。まだまだ世の中は障害者に差別的な所があるということを私は肌で感じているので…。こういった気持ちを持たないでいられるような世の中になれば…と思います。
大変良かった	当事者の方の半生をおききできてとても良かったです。このような機会がもっとあればよいですね。
大変良かった	
大変良かった	障がい当事者としてこれからも意見をのべていきたいと感じた。
大変良かった	
大変良かった	視覚障害者に対して声掛けを発表してくれてよかった
大変良かった	当事者部会の委員の方々から、生の声、想いをうかがえて、大変良かったです。
大変良かった	今年度は初めて全体会を企画していただき、ありがとうございました。当事者部会の方も参加していただき、直接お話をうかがうことができ、良かったです。特に「半生を語る」には感動しました。また来年度もこのような会を企画していたdかい、皆で障害のある方もない方も自分らしく暮らしやすくなるよう、考えていけたらよいと思いました。
大変良かった	大変勉強になりました。家族会にて共有させていただきます。差別についても、声をあげることの大切さをお話いただきましたが、制度や支援自体があることについてもお気づきではない家族、ご本人がいらっしゃいます。高齢の方であったり、声をあげることに不慣れであったり、手続きが苦手な方であったり、また経済的格差、教育的格差も影響しているように感じます。
大変良かった	各専門部会の活動や当事者の方々のお話が直接聞かせていただいて、勉強になりました。合理的配慮→合理的調整（対等でよいキーワードですネ） 高山先生のお話は、文京区、東京都、国、どのステージでも共通する課題への提言で、では実際に文京区で自立支援協議会がまとまって、一つでも同じテーマまで課題を絞り、共有し、解決にいけたらと思います。《キーパーソン》がライフステージで考えていけるとよいと思います。
良かった	パワーポイント資料の方がわかりやすかったが、遠目で見えないものも多かったため、同じものを配付した方が良かった。これまでの親会を廃止して、この全体会を毎年年度末に行い、一年間の活動内容を区民含めてさまざまな方々と共有していく形にするのが望ましいと感じた。

共生のための文京地域支援フォーラム

日時：令和6年11月26日(火)

11：00～16：00（予定）

内容

- 講演会
- 区内企業パネル展
- 就労支援専門部会委員事業所（区内事業所）紹介スライドショー
- 就労支援専門部会 当事者の声 スライドショー

ハートフル工房販売会同時開催

共生のための文京地域支援フォーラム

場所

- | | | |
|----------|------------|--------------|
| ○講演会 | シビックセンター4階 | シルバーホール |
| ○パネル展 | シビックセンター1階 | 展示室2 |
| ○スライドショー | シビックセンター1階 | 展示室2・マルチビジョン |

※YouTubeでの動画配信も検討

1. 講演会

第1部：銀杏企画から就労された方

第2部：障害者就労支援センターの就労中の登録者

【働く当事者の視点から】

- ・ 就労を始めた経緯と動機
- ・ 現在の職務内容と職場環境
- ・ 就労における大変さとその乗り越える方法
- ・ 就労によるスキルアップ
- ・ 仕事を通じて得た自信ややりがい、モチベーション

【企業の視点から】

- ・ 企業として障害者雇用を行う背景と動機
- ・ 企業にとっての障害者雇用とは
- ・ 障害者雇用をすることによりプラスになったこと
- ・ 本人との関わりのエピソード、一緒に乗り越えたこと、大変だったこと、良かったこと
- ・ 今後の展望

【支援者の視点から】

- ・ 本人や企業への関わり
- ・ 本人や企業とのエピソード

【共通】

- ・ 参加者へ伝えたいメッセージ

1. 講演会

第1部：銀杏企画から就労された方（45分）

休憩：15分

第2部：障害者就労支援センターの就労中の登録者（45分）

質疑応答（10分）

※職場で働いている様子やインタビュー動画も予定

※時間配分は予定

パネル展掲示予定の区内企業

株式会社図書館流通センター

学校法人順天堂

小石川植物園

藤田観光

文京建物管理事業協同組合

東京ドームファシリティーズ

東京ドームウィズ

TOMOWELビジネスパートナー
株式会社

トヨタグループ株式会社

文京区・業務サポート室

(順不同)

3. 就労支援専門部会委員事業所紹介スライド (区内事業所紹介スライド)

文京区障害者
就労支援センター

4. 区内の当事者から、働く事に対するメッセージ

当事者の方から働く事に対する想いやメッセージを集め、スライドショーに加える。

就労支援専門部会委員の皆様の事業所にて、当事者の方の「働くこと」に対する想いやメッセージをお送りください。

形式は、箇条書き、動画、写真とコメントなど形式は問いません。

スライドショーにして流すため、あまりにも長文であったり、量が多い場合はまとめさせていただく場合があります。